

## 2008年5月24日 松居さん講演内容

25年の月日が経ちまして、その間いろんな事があったわけですが、私が活動したのは1992年頃になります。当時、「鞆(とも)を愛する会」という、町おこしをしていた町々の店主や会社役員など様々な方が集まって作られた男性グループでグループがありまして、そこが反対の立場で知事にトンネル案を提出していたのです。私もそれを新聞で見て「このままでは鞆を無くす事になる」ということで、即署名活動をしようと、非常に単純に考えました。

私は30歳前後にアジア、ヨーロッパとアメリカに一年行ったりして、そこで日本の美しさと、故郷や祖国などいろんな事を考えさせられて帰りました。その後結婚を機会に鞆に定住することになったのですが、そのとき鞆のコミュニティの良さとかヒューマンスケールの良さとか、そういう事で定住を決めました。その矢先にこの計画を知ったわけです。

単純に、鞆を好きな人が鞆を壊す計画に賛成するわけ無いなと思って署名活動を始めました。夜に一軒ずつ、主人も仕事が終わった後に署名して下さいと廻っていく中で、結局分かったことは、そんな単純なものじゃないということでした。

「道路がつけば街が発展する、活性化する」という概念が日本の中に植え付けられているのだなと感じました。どうして道路がつくというのに反対するのだと。街が発展するじゃないかと。

鞆と福山市は、昭和31、2年ごろに合併しています。鞆は水道が欲しくて合併するのですが、それまでは堺の港のように自立した町制がひかれていて独立して発展してきた町でした。合併後の鞆は伸鉄、商業から鉄の街に産業がシフトして、鉄産業の代表者が鞆の声に段々になっていく過程で、開発の方へと向かっていきました。

それでも鞆の人にとっては、「鞆は取り残された街」という思いがどうも強くて、何かしてもらわなければ損だと思ってしまう人が特に年配者には多く、「何かしてもらえんなら、してもらえばいいじゃないか」という感じで、なかなかまちづくりの視点では話が通じていかない中で署名運動をするという、最初はそんな感じでした。

そのうち、こちらがしていた署名活動を賛成派もするというので、だんだん反対派と賛成派の間がギクシャクするわけです。その頃は県が消極的でしたから、県サイドから住民同士の話し合いの場を設けてくれたりしていました。しかし、解決せずに、どんどん住民の関係がおかしくなり、良い方に行かず悪い方に行くことになってしまいました。

そんな中、三好章元市長《(故人)1991~2004在職》は排水権者の同意が得られないことから計画を断念します。ところが現在の羽田皓市長《2004~現職》によって、もう一度それを再燃させられたというか、今度は問答無用ということで、新しい民意を作りあげていって、計画を実施していく形をこの4年間で作ってしまったのです。

賛成反対は人間ですから、色んな考えがあって当然なのですが、ただ、反対者の意見をほとんど無視する形でやってきたこの4年間というのは、全く許されない事だと私は思っております。

それでも国交省が砦になってくれていて、100%の同意をもってしか埋め立て免許を許可しないという事で、そこを私達も頑なに信じてきました。

国会でも石井こうき議員《故人》に質問して頂いて、国交省側から「排水権同意はいります」という答弁がありました。それを受けて県議会でも同じ答弁をしているのですが、そこで脆くもこの国会での答弁内容が崩れるわけですね。

—昨年頃から危ない、もう守りきれないという情報が入りまして、去年の2月から約2ヶ月であわただしく原告163名・弁護士8名の弁護団・原告団を結成し、4月24日には提訴という運びになりました。現在約1年を経て、仮差し止めの訴えがこの間却下され、本審はずっと続いているというのが今の状態です。

以上がだいたい25年間の歴史です。

今日用意させてもらったパワーポイントは裁判所で使ったパワーポイントです。

毎回期日には1時間づつ、時間をとってもらっています。普通こういう行政訴訟では5分くらいで終わっちゃうというのが通例らしいのですが、こちらの弁護団が1時間下さいということで、一応それを認めた上で、1時間づつこちらの意見陳述をさせてもらっています。

第一回は原告団長の井野幹雄さん、それから弁護団の水野先生によって意見陳述が朗々と行われました。2回目は意見陳述ではなくて、映像で裁判官にも見て欲しいということで、裁判所に2カ所画面を設置し、証拠として、このパワーポイントを出させてもらいました。



これは福山市に住む専門の写真家の無料提供で、是非役立てて欲しいということで頂いた航空写真です。

このように見ましても本当にきれいな円形港湾で、沼隈半島の一部になるのですね。右手の方にかすかに見えるのが福山市、左の方の奥へいくと沼隈町《2005年市町村合併により福山市に編入》、常石に至るわけです。これが沼隈半島で一番出っ張った所が鞆の浦になります。右手が鞆港、そのもうちょっと上にあるのが原の港になります。それから左にあるのが平港です。

鞆の浦はだいたいこの港を中心にして、城山からちょっと上の方に行ったところまでが旧鞆町です。鉄鋼団地は昭和期に日本で初めての鉄鋼団地と言われるような埋め立てが行われた所です。

この埋立架橋計画は福山港湾の中の一つとして進んだわけですが、これを計画するにあたって鉄鋼団地の上の方にも港を作るし、原の港も充実させていくという事でした。つまりこの港だけの計画ではなく、これに追随する色んな計画がこの事業にはあるという事ですね。

この事業自体でも55億円と言われてはいますが、色んな事業を含めると、やはり200億円くらいの港湾事業になるのではないかとされています。

推進の力が強いのは平地区です。福山に行くのにどうしても鞆中の方を歩いていかなければならない、それなら港の船で行けばすぐ行けると、誰でも思うわけですが、それで生活道路だとか色々言われているわけです。

当初は福山市がずっと以前から計画している南岸バイパス道路として位置づけられました。バブル前ですから、約1万台以上通るという想定のもと、この南岸バイパス道路を横切って松永に抜けて、という構想でしたが、その時は漁師たちの反対にあいまして中断します。今度は「生活道路」に変わるわけですね。

平地区の人達が救急車や消防車が通れないと困るとか、色んな理由をつけて埋立架橋計画に持って行くわけです。ところが平地区の中には山側と下にしか道がないんですね。ですから消防車が行って

も救急車が行っても中に入れないという昔ながらの状態が続いているわけです。

その矛盾を突かれ「生活道路」の理由がつかなくなると、今度は「町並み保存の代替道路」として言い出すわけです。今朝ちょっと通りました所が 1950 年に都市決定されて、その都市決定がある限り町並み保存は出来ない、代替道路があるという事で、このバイパス道路を代替道路として進めようとしています。それで町並み保存をしようというときにセット案を打ち出したわけです。

福山市の伝建条例で指定しまして、その前に都市計画道路を外すわけですが、今回は単独で指定を外しています。じゃあ今まで何故出来なかったのか。だって変な話ですよ。町並み保存するときはこちらが外しなさいと要求したときだって、セット論だといって外さなかったのに。

私達はその辺の所が素人で、結果が出るまでわからないのです。行政は法の穴を通すようにとにかく色々な手腕を巧みに使って、住民の目を欺いております。

そういう中で、埋立て架橋する場合にどうしても埋め立てなきゃいけない。で、排水権同意がある。排水権同意を 100%なくても出来るという、国交省は決してそう言ったわけではないと言っているのですが、法律的には 100%同意というのはうたわれておりません。そこを逆手にとって同意が無くても出来ると言っているわけです。

ただし、それを同意無しでするためには、個の不利益よりも公の利益が大幅に上回らなければいけないという理由がいります。その公の利益というのが、港をつぶすかわりに町並み保存という大きな利益がありますよという事であるわけです。それで急に態度を変えて町並み保存と言い出したわけです。



これは大正時代の写真ですね。今日歩いた県道筋ですね。大正時代にはこのように綺麗な町筋があり、城山にはもう一つ町筋が通っています。

この頃はまだ倉も綺麗に残っています。しかし昭和 37 年に出来た埋め立てと道路の寸断で、町がどんどん壊れていくことになるわけです。



この左側が太田家住宅ですね。国の重要文化財に指定され、7年の歳月を経て手をかけて修理・再現されました。右の家は林家と言われます。日本でも福山でも一番早く幼稚園を作った、鞆鉄道の創始者です。



これは福山城の長屋門を移築して、建てられた保命酒屋です。



これは今日見ました城山、福島政則が1600年城を築こうとして、この城山の上から名所鞆の浦の景色を見た

所です。

このように、海辺とか海の綺麗さを裁判所でアピールしたわけですね。



これは有名な朝鮮通信士が「日東第一景勝」と褒めたたえたとされる対潮楼から見た景色です。その言葉が木額に残っているということで有名ですね。

今瀬戸内海を世界遺産にという中で、この朝鮮通信士の道が注目されていて、今年400年ということで、いろんなイベントなどの活動が行われているようです。実は「日東第一景勝」はずっとこの景色だと言われてきたのですが、実際に文献で見るとどうもそうではない。

夕刻庭に床机を出して座って休憩をしていると、そこから見る景色が非常に素晴らしい。その当時はまだ町家の屋根は低いですから、この景色だけではなく瀬戸内海全体が見えたわけです。そして鞆港も見下ろせて見えて、その出す灯りの美しさに、というような文献が残っています。

ということで、この景色だけでなく、ここから見る瀬戸内海全体を含めた全体の風景を「日東第一景勝」とうたったのだらうと推測できるわけです。

また、これを言った朝鮮通信使は江戸からの帰りではなく、行きにこの言葉を詠んでいるのですね。まだ江戸までの光景を見ていないのに、なんでそんな事を言えたのでしょうか。きっと鞆に何度か朝鮮通信士が来ていて、そこから帰ってきた人の話を耳にしていたのだらう、それであるほど日東第一景勝だという言葉を出したのではないかと思います。



これは入り口の方から見た写真です。綺麗な円型港湾の形が見えていますので、これが潰されてしまいますと綺麗な円形港湾もほぼ1/3が無くなるということですね。航空写真から見たらわずかに

見えますが、実際現場に立つと半分以上埋め立てられたと感じると思います。



私達は実際に生物調査を3回したのですけれども、綺麗な砂浜でも約180種類くらいの貴重な生物を採取しております。

残念ながらマスコミは「開発か保全か」とか「生活か景観か」とかといった形で対比させるため、ここでどうも論議が誤った方向へ行ってしまう。私達は決して「開発か保全か」とか「便利か保存か」といったことではなくて、生活を守るためにやっているというのが皆の意識なのです。

しかしながら「生活環境」では残念ながら裁判を勝ち抜くことが出来ません。鞆の場合は、どうしても景観でしか戦えないというのがあるわけです。環境というのは、例えば環境汚染などは、よっぽどのデータを作らなければ立証出来ません。しかし景観サイドならすぐ立証できるということで、結果的には景観で戦っていくしかないというわけなのです。

鞆は山や海に囲まれた非常に狭い所ですから、ここに道路がつきますと、先ほど歩きました元町地区の人達は騒音と空気汚染に悩まされる事になるでしょう。また道がまっすぐついでしまうことによって、今暴走族という言葉はあまり聞きませんが、それでもバイクに乗った若者の恰好のレースの場になってしまうでしょう。さらに埋め立てて駐車場を作って広場が出来ると、いろんな教育環境も悪くなるであろうし、社会環境だけでなくもちろん自然環境も悪化します。私達は環境ひとつ捉えても、これは大変な問題であると認識して動き出したわけです。

ですから景観・歴史というよりも、まず初めに浮かんだのは自分達の生活が危うくなるということから動き出したのですね。

「何故このような計画が安易に採択されるのか」と素朴な疑問がわきました。とかく住人はわが町をきちんと知らないからだろうと考えまして、まだこんな緊迫してなかった頃に仲間を募って、とりあえず週1回の勉強会を開き始めました。

そんな中で全国町並み保存連盟に出逢いまして、新潟県村上市での大会で発表させて頂き、そこで大学とのご縁ができました。伊東教授が《伊東孝教授 日大理工学部》が来てくれ、西村研《西村幸夫教授 東大都市デザイン研究室》が来てくれるという繋がりになっていて、鞆をきちんと調べようという事に発展していったわけです。

港湾施設を3～5年の月日をかけて日大が波止場、雁木、焚場(たでば)、常夜燈、というふうの一つづつ検証し、それを鞆の「Mook 鞆」として発表してくれました。また東大の西村研は都市デザイン研究室ですから、町の中を調査して、それを「鞆雑誌」という形で発表してくれました。

それを鞆の住民、福山の住民に見て欲しいと、町の空き屋を使ってT-houseという形で発表会をし

て、それを見て皆で考える場を提供しよう、そしてまちづくりを考えていこうとしたのです。外へは波及していくのですが、反面、鞆の人達の中に波及してゆかない。逆に外者呼ばわりされて反発も出てくるという事にもなりました。

この間ある社会学部の教授が、鞆の会の住民運動をやってきたことを論文にまとめたものを送ってくれまして、私達のやっていることは「内」じゃなく「外」の人を呼び込むことによって運動・活動を広げていったというような分析をしていましたが、それは私が意識してやったわけではない。なかなか草の根の運動というのは難しいのです。

どうかして地元の人達に理解してもらいたくて、話し合いの場を作るなど色んな努力はしてきました。しかし本当にとっても難しく、理屈ではわかるのですが、感情的になっていくとなかなかその場が作れないし、話が平行線になるわけです。

その間に二度ほど白紙に戻して皆で話し合いの場を持つということ、反対賛成両方の住民が集まる場を作りました。50人くらいの各界の代表や中心になってやっている人が集まって、私もそこに出席して傍聴したのですが、2回したら平地区の人が町民運動会をボイコットしてしまって、賛成の方が全く出てこず、決裂してしまうということになってしまったわけです。

これは町屋の、今日歩いた所ですね。こちらが沢村船具店といって元禄時代からの船具屋さんと言われています。





これは医王寺です。それから鞆で一番古いと言われている静観寺、太子殿、法宣寺、これが安国寺になりますけれども、鞆には真言宗、禅宗、浄土真宗、浄土宗、日蓮宗と、ほぼあらゆる宗派の寺が今でも19も顕在しています。

どうしてこんなに寺が多いと言われるんですが、江戸時代には30くらいあったそうですが、一つにはこの町が裕福だったということ、もう一つは港町で、嵐が起きたり潮の状態が悪くなかったり滞在した人達が観光しなければならぬ。昔の観光は寺社巡りなどが主ですから、多分それがあってののではないかと思います。

それからやはり色々な人が潮待ちで来ますから、普及にも最適だったのではないかと。そういう色々な理由があって鞆に沢山の寺が存在したのではないかとされています。

それから後は神社ですね。大きな沼名前(ぬなくま)神社がございますけれども、あとは歩いて気づかれたかもしませんが、小さな祠、大小合わせて53ございます。井戸も沢山ありまして必ず水神さんが祭られています。池田武邦さんは鞆を「神の町」という言い方をしますが、地蔵さんとかいろんなものをずっと見ていくと本当に沢山のものが鞆にあるという事がわかるわけですね。



これは「とうろどう」ですけど、先ほど言いました5点セットということで、その内のこれ（右上）は常夜灯です。私達は「とうろどう」と呼んで親しんできました。石では日本で一番高いのではないかと思います。

こちら（右下）は雁木場ですね。満ちるとこの辺までであると思います。約4mの干満差がありますけれども、昔は舳（はしけ）を渡すのに、どこでも舳が渡されるように、この雁木場を作ったということです。



これはまだ鞆で見られる漁師さんの風景です。

鞆には4つの漁師の区域がありまして、先ほどの平地区、港の中の元町、バスセンターの西町、それから原町という4つの漁師の区域がありまして、それぞれが漁業をしているわけですね。



これは路地風景です。鞆ではこのような路地の風景がまだ見られます。

鞆はわりと色々な所から写真を撮りに来られます。また、車の危険性もここからだったら大丈夫ということで、このように子供達が来て写生をしているのですね。これで橋があったら写生どころじゃないという気はするのですが、それでも。



暑い時とか、夕暮れ時になると常夜燈にお年寄りが涼みに出てきます。こうやって自然にコミュニティの場所が作れてくると、非常にお年寄りや子供にとって優しい町だということがわかりますね。ですから、ここでは特別に集まる場所を作らなくても自然に集まる場所が出来ているというわけです。

先ほどちょっと雨でバタバタ通ったんですけども、元町地区の神社の前にも椅子がいっぱい並んでましたよね。いつのまにかあそこにも人がいて話をする場所があるということで、非常に面白い感じがします。

このように、私達が裁判所に色々出したのは、裁判所の人にただ景観だけじゃないんだと、そこに住んでいる人の歴史や環境に培われてきた我々の生活をも変えていくんだと、訴えたかったのですね。それをわかってほしいということで、色々な風景、色々な路地の生活なども裁判所の方で見て頂くことにしたわけです。



ここからは古い鞆の写真を見ていただきます。対潮楼です。ここに道ができたわけです。



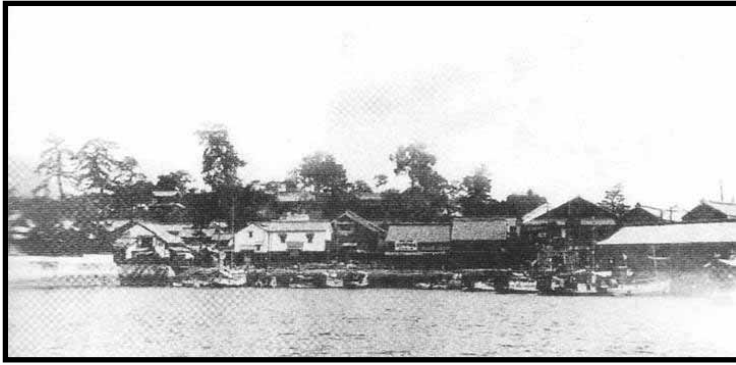
これがちょっと説明しましたが、もトキワ旅館、ここにシーサイドがどーんと立ったのですね。この後でも出ます。



これが鞆小学校です。先ほども言いましたように、これだけ密集しています。大都会なんですね。今でこそ過疎と言われますが、本当に昔の大都会で、私達のときですら一学年 300 人いた時代ですけれども、そのときの模様です。



これも鞆港の中の様子ですね。この船を「あいちけん」と呼んでいました。愛知県から来たのか、その理由はよくわかりません。昔から漁師さんの使っていた船を愛知県と呼んでいて、これだけの船の数が鞆の港にあったという事がわかります。



これはつきあたり、先ほどはここに入ったんですね。

そして今これがフリースペース白壁、これはそう変わってはいないですね。

基本的にそんなに変わってないですが、この城山が少し変わっています。この当時はまだほとんど家が無いですね。



これ(上)が鞆鉄道です。鞆鉄道から鞆鉄バスに変わりました。今はこのバス(下)が観光バスの的に走っています。よく「らっきょ自動車」とよばれて親しまれた小さな車で、ちょっとした坂で沢山乗ったらもう進まなかったらしいですね。皆で降りて押したと言われていました。残念ながら私が3歳の時はもうこの自動車は無くなって、こちらのボンネットバスになってたんです。



これは昔の町筋の様子ですね。これは御幸町(みゆきちょう)ですが、七夕でしょうか。何か一杯飾ってありますね。



鞆には映画館が二つありまして、これはそのうちの一つの映画館ですけれども、これはどうして人が並んでいるのかといいますと、私が小学生5年生くらいの頃は劇場、映画もやるし舞台もやるしという映画館でしたので、ここでいわゆる小学校の学芸会をしていたのです。それを観に来るのに、町の人達が並んで待っているという風景ですね。



これは海から見た大可島（たいがしま）です。円福寺と林家の別荘が写っています。

この円福寺は今向きが変わっています。森下仁丹が鞆出身で、いろんな事に寄付しているんですね。このときも古くなったので建て替えるということで相当寄付されて、そのときにもう少し大きくして向きを変えました。



これは林家の別荘を、こちらに波止場がありますから、そちらから見た様子です。これが船番所ですね。

今普通の人に住まわれて建て替えられております。石垣だけが残っているというわけです。残念ながら、水産業者が不法占拠して、勝手に埋め立てて広くしてしまってるんですね。

ここに稲荷神社があります。私達が子供の頃はこの状態でしたので、よく遊びに行ったり、この下の所で魚や貝をとったりして遊んでいたのですが、一水産業者が占拠してここをセメントで勝手に埋め立てて車を置いて、自由に使いたい放題という、残念ながら非常に汚い状態になっています。県に苦情を言いますが「指導します」という言葉ばかりです。



これは沼名前神社ですけれども、これも残念ながら焚火の火が燃え移って焼けてしまいました。お伊勢さんが屋根の葺き替えをしますよね。その吹き替えた後の茅を、ここに持ってきて葺き替えたといわれているのですが、残念ながら焼けた後は銅になってしまいましたから、そういうことも無くなっています。





もう一度これで表側に戻るわけですが、これが原の港ですね。それから元町の港、こちらが平の港。それから石井町の漁師さんはここなんですが、港としてはここを使っています。

町を通らず福山へ行きたいと平の人達は思っているわけですね。

見て頂いてわかるように、完全なバイパス道路なんです。旧道からのアクセス道路がありました

ということで、代替案として私達はトンネル案を出したのです。

しかし、それにはほとんどメリットがない、観光客の駐車場もないし、通り過ぎりの町になってしまうと言うのです。結局ほとんど検討もされないまま、メリットが無いという一言で却下されているのです。



これは県が作成したパンフです。この砂浜が全部埋まってしまう。台風が来たらまともに波を受けます。

ターミナルもほぼフラット状態ですから、高波が来たりするとほぼ通れない。おまけにここを避難地にしているのですが、これは正直よくわからないですね。台風がまともに来る所をどうして避難地にするのか。



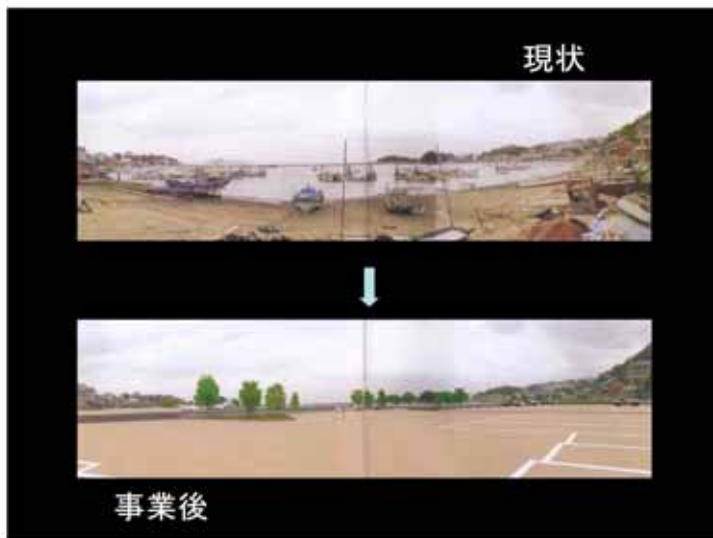
これが先ほど見た砂浜の所ですけども、ちょっと夢場の所を渡って、パン屋さんのだいたい裏手になります。現在パン屋の前は海ですが、埋め立てられると目の前の海が道路になってしまうわけです。



ここも砂浜を埋めて駐車場になります。ですから全く海は見えなくなってしまいますね。



これはバス停から降りて見た所ですが、これが橋がかかってこのような状態になります。常夜灯は橋の中に入ってしまう。2車線道路で21mほどですね。



これはこちらから見た図ですけれども、広く見えますけれども実際はこういう感じではなく、もっと緊迫した感じですね。実際は目の前に壁がくる感じになると思います。



橋桁がこのように、どちらから見てもコンクリートの壁がざっと見えてしまうという状況になると思います。

これも浜辺がこのようになってしまいます。

警察署と常夜燈の前に少したまり場が造られ、どこでもやっている埋め立てのやり方ですね。



私たちは NPO を立ち上げて空き町屋再生をやってきました。



これはハウジング財団から 70 万円ほど補助金を頂きまして、大家さんが幼なじみでもったいないから使ってということで無料提供して頂いたものですから、最初に大工さんに入ってもらって強度などを一応危険のない程度に直してもらいました。それから後は壁塗りとかベンガラ塗りとかを皆でワークショップ形式で1年くらいかけてやりました。

それから東大に来てもらって、まずどういう風にするか、模型を皆で作ろうとか、から入りまして、まず町を歩いてみよう、ここに何を作ったらいいだろう、ということで、だんだん作っていきました。

ここは壁だったのですけれども、角地ですからこの壁を抜いたら見通しが良くなったと言われました。後から昔の写真を見たら、やはりここは元々空いてたんですね。その後改装したときにまた壁を作ったことがわかりましたが、今はまた空けたわけです。

今は陶芸の人が入って、展示場として使って、ここで暮らしながらやってらっしゃいます。



これ(右上)も、元の写真があったら良いのですが、私でさえ諦めていたような家だったのですが、幸いにも借り手が見つかりまして、これも綺麗に改装しました。何百万とかかって直したのですが、本当に朽ち果てていました。

こちら(左上)も今じゃこめし屋さんで、食事屋さんですから、やはり何百万もかかって綺麗にしていますね。こちらも太田家の所有です。太田家の物は原則的に貸して頂けます。

私達は不動産屋ではないのでお仲人役をするくらいなのですが、紹介して両者が良いとなったら契約書を当人同士で交わして頂きます。そこで役目は終わるんですけども、その後も相談には乗りますよと、もし希望があれば大工の紹介もします。あとは町並みを壊さないでして頂きたいので、その辺りをお願いしたり、アドバイスしたりしています。

ここ(下)も本当はドアがここにあったのですが、柵で囲われていた所を掘ったら昔の下水道の跡があったんですね。せっかく面白いからこの下水道を見せようよということで、ここを空けてもらって、でも危ないからということで柵をしているのですが、ドアを一枚下げた所で作っているという形で、今はここでお店をしています。

今度は鞆のお祭りを見て頂きたいということで出したのですが、これは2月にある「お弓神事」です。昔お弓神事というのはお城の方が各町に奨励しまして、色んな所で行われていたようです。今では他は無くなって、鞆だけが残ったというわけです。

これも旧鞆町が7つに分けられていまして、だいたい祭りはその7町によって廻しながらやっていくという形をとっています。



これがその「お弓神事」の様です。

こんな風におおゆみぬし(大弓主) 小ゆみぬし(小弓主)でやります。



これは7月に祇園さんの祭りがあります。先ほどの祭りは八幡さんの祭りです。沼名前神社には明治時代に3つの神社が合祀されて、八幡神社と祇園神社と渡守（わたしもり）神社と三つの神様がまつられています。

その祭りを私達は祇園さんと呼んで祇園さんの祭りが3つあると思っていたのですが、三つの神社の祭りだということがわかりました。

これは7月に催される「お手火」です。

昔足利尊氏の砦があった大河島には円福寺という寺と、御旅所という沼名前神社の出先の両方が祭られているんですね。で、「お手火」の祭りの次の日に神様が渡ってきて、こちらで神様を拝むということになっています。

「お手火」のときは一週間、沼名前神社から神様が円福寺の御旅所の方へ渡ってきて、昔は一週間こちらで市が立って、大変賑わったと言われています。



これは秋祭りのときの模様です。3日間続きます。



これがちょうさい蔵で、そこに収められている「ちょうさい」《祭りの太鼓台・山車》ですね。各町で少しずつ違います。

こういうのを「造り物」というのですが、これも町内文化祭的なもので、これはドコモダケでしょうか、その時に流行った物を作って、次の日にこうやって馬の台に乗せて町内を練り歩くわけですね。こういうふうな踊りも出てくる祭りです。



これは初日夜行われる絵行灯(あんどん)です。これもそのときの流行りの物をこうやって描いて、各町内で自分の好きな物を出すわけですね。昔は歌舞伎的な絵が多かったですけれども、最近は流行り物の方が多いです。

これは燈家といわれ若い人が、どんちゃん騒ぎをしています。祭りは3日間続きます。



クライマックスの三日目にこの「ちょうさい」が出ます。町内を一巡りして、それから鞆中に出ていくわけですが、だいたい明け方の5時頃に帰ってきます。夜を徹して「ちょうさい」を曳き、町内をねり周るので、今は若い人のストレス解消になっています。



この秋祭りには、自分の家の家紋をつけた幕を家の前にします。昔は本当に町筋が揃っていましたが、この風景が綺麗に連なっていたわけですね。

このように、色々な顔を持った鞆の浦を見て頂きたいということで、このパワーポイントを制作して裁判所でやることになったわけです。

ですから、ただ景観だけではなくて、景観の中には人の生活、風土といったソフトの部分も含めて、作ってきた人間の生活があるのであって、埋め立て架橋はそれを壊していくのではないかという危惧を持って、私達は裁判を通して反対をしてきたということを知って頂きたかったのです。

また、何度も申し上げますが「開発＝便利、保存＝不便」というこの誤った概念を打ち破ることが必要です。短絡的に「開発は便利」という発想で物事を始めると、この問題は本当に誤った方向に行くという思いが、長年活動してきてあります。

そこからやらないと、その先のまちづくりというのは出来ないのではないかという気持ちでずっとやってきています。

私は専門家でも何でもありません。鞆の町がどうあるべきだとかいった、そんな大きな事も思っていません。今必要だからという事でずっとやってきた結果がここにあるわけで、決して最初から専門家のようにマスタープランを持っているわけではありませんし、決して最初から企画が出来るわけでもありませんでしたけれども、目の前にある問題を解決して一つずつやってまいりました。

全部はお話しさせていただいてないと思いますので、後は質問で抜けた部分を埋めていきたいと思っています。

ありがとうございました。

